

沖縄県の青少年におけるヘルスリスク行動とライフスタイル

高倉実（琉球大学医学部保健学科 学校保健学研究室）

小林稔（琉球大学教育学部 附属教育実践総合センター）

【はじめに】ヘルスリスク行動とは、人の生命や健康に重大な影響を及ぼす行動のことで、次の6領域に分類される：喫煙，アルコール・薬物使用，望まない妊娠や性感染症の原因となる性行動，不健康な食行動，運動不足，傷害や暴力の原因となる行動。これらの多くは青少年期に確立されるために，この時期に行動の実態を把握し，その結果に基づいた確かな健康教育プログラムを開発し実施することはきわめて重要なことである。沖縄県の場合，女性の平均寿命は全国一を維持しているものの男性は26位に転落し，もはや長寿県ではなくなった。その要因として青少年の交通事故や青年から壮年にかけての自殺，循環器疾患による死亡率が全国よりもかなり高いことがあげられる。このように生産年齢層や若年層の早世が多いことには青少年のヘルスリスク行動が大きく関与していることが考えられる。沖縄県が短命県へ推移しようとしている今，青少年のヘルスリスク行動の実態を検証することは，重点的に介入すべき要素を明確にするためにも早急に必要とされる。本研究では沖縄県の高校生を対象に多様なヘルスリスク行動の実態や特徴を記述することを目的とした。

【方法】これまでに本研究室では，沖縄県の高校生を対象に，数回のヘルスリスク行動に関する調査を行ってきた。ヘルスリスク行動は，米国疾病管理予防センターが作成した Youth Risk Behavior Surveillance (YRBS) の質問項目を用いて測定した。これらはバイリンガルを含む研究者によって日本語に翻訳されたものである。最新の調査は，2002年に学級において自記式無記名の質問紙法により実施した。対象は沖縄県全域から選出した全日制県立高等学校25校（普通科17校，専門学科8校）の各学年1学級に在籍する生徒2852名であった。調査は調査手引に従って学級担任が質問紙を生徒に配布し，記入させ，回収用封筒に密封させて回収した。その際，回答を拒否できることや拒否しても何ら不利益を受けないこと等を説明した。

【結果・考察】ここでは主に2002年の調査結果を概観する。米国YRBSの結果と比較してみると，ほとんどの行動について米国の高校生の方が健康を悪化させる傾向にあったが，沖縄県の高校生の場合，男女とも米国より，自動車に乗るときシートベルトを着用せず，自分を太りすぎと認識し，有酸素性運動や筋力増強運動が不足していることが示された。一方，男子では，常習喫煙，大量喫煙，複数の性交相手，性交時のコンドーム使用，女子では，大量喫煙，現在飲酒，性交時のアルコール・薬物使用，性交時のコンドーム使用，やせるために吐く・下剤使用の出現率には米国との間に差がみられなかった。生涯喫煙，現在喫煙，常習喫煙，大量喫煙，早期喫煙経験，有酸素性運動，筋力増強運動は男子の出現率が高く，ヘルメット未着用，飲酒運転同乗，自殺念慮，性交経験，太りすぎ認識，絶食，やせ薬使用，吐く・下剤使用は女子の出現率が高かった。本知見から，沖縄県の高校生のヘルスリスク行動からみたライフスタイル傾向は沖縄県の主要死因に影響している可能性が推察された。また，これまでの研究結果から，高校生のヘルスリスク行動の中でも，喫煙，飲酒，性交がクラスター化し，個人に集積して起こることが示され，これらで問題行動症候群が構成されることが明らかになった。

【キーワード】学校保健，行動疫学，健康教育，ヘルスリスク行動，生活習慣病